



東京の東中野に移転した「南沢共働学舎」と「共働学舎東京事務所」の入っている建物。



各地の連絡や会議はオンラインで。直接会えないもどかしさと、参加できる人が増えるメリットも。

コロナ禍の中で一步一步

勢いの止まらない新型コロナウイルスの流行に、共働学舎でもさまざまな対応が求められた1年半でした。

毎年、皆さまとお会いできる大切な機会だった春の報告会は2年続けて、またポレポレ座での収穫祭も、昨秋は行うことができませんでした。この間の各地の様子をお伝えしたく、「報告会号」をお届けします。

〈 信州 共働学舎 〉

たてや
立屋

22名 (2～78歳)

立屋と真木で力を合わせて 西田 真

昨年からの移動の自粛を迫られ、来客も少なくなり、受け入れにも慎重になりました。それでも昨年の堆肥場建築の中心となったボランティアの木工さんを始め、要所で助けてくださる方々が与えられました。来客が少ない分、人手が足りず立屋と真木と一緒に作業する機会が増えました。田植えの時など広がった立屋の水田を耕作するには協力が必要でした。今年は5月にズームを利用して信州のオンライン報告会を開くことができ、約30名の方が画面を通してご参加下さり、一歩前進できたように思います。木工・工芸品など報告会以外では販売機会の少ない物も宣伝でき、注文があればいいと期待しています。

皆が気兼ねなく外出できる日を待ち望みつつ、注意喚起する日々です。



4月末、総出で苗代作りをする。



堆肥舎の増築



畑の準備



ジャガイモの植え付け

初雪の10月、山羊のゼアミに干し草を。
下・右 伐り出した丸太の皮をむき、製材所で水車の力を借りて板にする。



雪に埋もれた新屋敷



春先のひと時を縁側で



水車の力で製材

まき
真木

12名 (2～68歳)

共に働いてくれる人を 井上宗高

メンバーがさまざまな事情で去っていく中、どう暮らせるか？ 真木プロジェクトは続けられるか？ 田畑は管理できるか？ と不安要素を沢山抱えたコロナ禍。それでも昨年は、水車小屋増築、養蜂の再開、人の受け入れを続け、新しい出会いの若い力と、良い動きに支えられてきました。一人増えるだけで力強く感じ、「今いる人でつくる真木」なのだと思います。同時に、現場にいない多くの方の想いに支えられていると感じ、感謝して、つながる、人を迎える場をつくり続けます。

今年は、水車小屋増築の続きと、^{アラヤシキ}新屋敷茅葺き、イベントも考えています。野菜を育てたい人、家を守ってくれる人、荷揚げしたい人、メンバーと和み共に働いてくれる人を、喜んでお迎えます。

共働学舎製品のご案内 ご注文をお待ちしております *詳しくは各学舎にお問い合わせ下さい。



南沢 クッキー
☎ 03-5937-5258



新得 ナチュラルチーズ
<https://kyodogakusha-online-shop.org/>



寧楽 ソーセージなど豚肉加工品
☎ 090-4871-3531



信州 木工品・織物
☎ 0261-82-2615



「からだは一つの**えだ**（えだ）だけでなく、多くのものからできている。
からだのうちで他より弱く見える**えだ**（えだ）が、かえって必要なのである。」

コリント第1の書12章／「共働学舎の構想」より

〈北海道共働学舎〉

ねいらく
寧楽

19名（5～73歳）

生活を見つめ直す機会 吉田 肇

コロナ禍になって1年以上が過ぎました。田舎での農的な生活にそれほど大きな影響はないものの、イベントへの出店がなくなり、海外ボランティアが来られなくなるなどの変化があります。おおまかには外の社会との交流が減って、少し内向きの生活スタイルになりました。幸いにして多くの方々に支えられ、今のところ経済的な打撃は思ったほどではありませんが、とにかく人が少ないことに一番困っています。

今は、自分たちの生活を見つめ直す良い機会だと思います。コロナウイルスは環境破壊で自然のバランスが崩れたのも一因。あらゆる生き物が良く生きられるように自然から謙虚に学び、共に生きるための方法を模索して行きたい。そして私達の仲間が増えることを切に願っています。



4月、水田に舞い降りたコハクチョウの群れ。春と秋の渡りの時期には、上空を飛んでいく。寧楽の建物（左からおもや、豚舎、倉庫）を背景に。



元気一杯な140頭の豚



豚舎の朝は早い



5月、野菜の苗を植える



夏季は牛乳山に牛を放牧。約100頭の牛や、馬、羊、山羊が草を食む。

しんとく
新得

58名（1～82歳）

コロナ禍でも心は自由に 宮嶋京子

昨年来、持病を持っている人たちの健康をどう守っていくか、お客様との接点をどう持つかと不安な時期が続きました。生活と仕事それぞれに対策を取り、生活の場での不安感が減っていきました。メンバーたちは、日々の動物の世話や畑仕事をする中、とても良い目をしていきます。変わらない日常と自分で決めた役割があり、心の中に自由が与えられているように思います。

経済は打撃を受けましたが、新しいお客様との出会いもあり、販売の努力を続けています。会員の皆様からチーズ便・味わい便のご注文をたくさんいただき、支えられていることへの感謝と、良い品をお届けしたい気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。



今日は雪上運動会！



出荷を待つ熟成チーズ



休校中は畑の手伝い

みなみさわ
東京・南沢

12名（25～73歳）

新天地に夢を託して 小野孝子

南沢共働学舎は2020年10月に東久留米市から中野区東中野へ移転しました。東久留米市では地域に根差し、多くのボランティアに支えられて28年間続けてくることができました。東中野は駅から近く、人通りの多いところにあり、多様な活動の展開に希望を持ってスタートしました。11月からクッキー作りを再開してメンバーたちは喜んで集い、働きました。しかしコロナ禍での活動は困難を極めました。緊急事態宣言中はメンバーたちの感染リスクを考えると休まざるを得ず、その一方で家で過ごすメンバーたちの健康も心配でした。休業や移転作業のためクッキーの売上は前年比38%に落ち込んでしまいました。

アフターコロナには様々な人が集える楽しい場にしたいと夢見ています。



工房は、東中野銀座通りの商店街から路地を入った場所に。



少し狭くなりましたが、皆の熱気は変わりません。上は、制作中の看板。7月には完成の予定です。

【振込先】 郵便振替 00110-1-779127
三井住友銀行 ひばりヶ丘支店 普通口座 6735162
りそな銀行 ひばりヶ丘支店 普通口座 3927070
(口座名義) 特定非営利活動法人 共働学舎

〒164-0003 東京都中野区東中野 3-16-9-104
特定非営利活動法人 共働学舎 東京事務所
☎ 03-5937-5257 FAX 03-5937-5258
kdg.tyo@pc4.so-net.ne.jp http://www.kyodogakusya.or.jp

発行責任者 福澤和雄
印刷(有) 乗松印刷